

・・・編集後記・・・

世界経済は100年に1度の深刻な危機に見舞われる中、「Change」を掲げるバラク・オバマ氏が黒人初のアメリカ合衆国大統領に就任した。極めて大きな期待が寄せられている。2009年はまさに大変革の幕開けの年になりそうである。

日本臨床検査学教育学会にとっても大きな変化が一つ生じた。それがこの学会誌である「臨床検査学教育」の創刊である。2006年の夏に第1回日本臨床検査学教育学会学術大会が開催され、臨床検査技師教育に携わる教員が一同に集まり、率直に意見交換できる場ができたが、その成果を発表する学会誌の創刊が待たれていた。そして編集委員長には予期せぬ私が任命され、編集委員の先生方と共に四苦八苦しながら何とか創刊に漕ぎ着くことができた。

「臨床検査学教育」では、「21世紀の臨床検査のプロ」として40年間活躍し続けることができる臨床検査技師を育成するためには何が大切か、ということなどを皆で議論できるようにしたいと考えている。そのためには、まず私たちが、21世紀の医療と臨床検査の動向をしっかりと把握する必要がある。少なくとも自分の担当科目に関連する学会には入会して積極的に学ぶことは重要である。そして、他の専門分野の動向も知っておくことが大切で、そのため「関連学会報告」を設け、参加者にその分野のトピックスを紹介してもらうことにした。また、現在は3

年制教育から大学教育への過渡期にあるが、この移行をいかに早く終わることができるかに臨床検査技師という職種の将来がかかっている。そのためには教員の博士号取得が不可欠であるが、大学教育へ移行したところでも教育研究体制を整えるのに必死の状況にある。そこで、いち早く良好な教育研究体制を整えられた先生方に、その方針や運営の仕方などを「研究室紹介」でご紹介いただき、大学の活性化を促したい。そして多くの3年制教育施設の先生方が社会人入学制度等を活用して博士号を取得できる環境を整えたい。

日本の臨床検査技師という職種を面白くするも詰まらなくするも、そして医療職として非常に重要なものにするもしないも、すべて私たちの教育と研究に懸かっていると言っても過言ではない。高い理念と目標を掲げ、これからの教育研究体制、方法、内容など、研究指導も含めた臨床検査技師教育に係る原稿を「臨床検査学教育」に積極的に投稿していただき、建設的な意見交換を通じて、よりよい教育と指導が日本中で行えるようになることを夢見ている。そして、「臨床検査学教育」が臨床検査技師の大きな「Change」を促し、栄光への架け橋になることを願う。

(平成21年2月10日 編集委員長 岩谷良則)

一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会

日本臨床検査学教育学会 学術部

編集委員会(平成20・21年度)

委員長：岩谷良則(大阪大学)、副委員長：戸塚 実(東京医科歯科大学)、委員：市原清志(山口大学)、江本正志(群馬大学)、奥村伸生(信州大学)、北里英郎(北里大学)、熊取厚志(千葉科学大学)、森山隆則(北海道大学)、横井 昭(藤田保健衛生大学短期大学)、横井豊治(名古屋大学)

臨床検査学教育 第1巻1号

平成21年3月1日 発行

発行人：一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会

理事長 三村邦裕

〒143-0024 東京都大田区中央 3-22-14

(昭和医療技術専門学校内)

Tel. 03-3775-1611 FAX 03-3775-4304

<http://www.nitirinkyo.jp>

編集：日本臨床検査学教育学会 学術部 編集委員会

E mail : edit@jamte.org

制作：(株)宇宙堂八木書店

〒104-0004 東京都中央区入船 3-3-3

Tel. 03-3552-0931 FAX 03-3552-0770

広告取扱社：(株)東広社

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-3-8

Tel. 03-3409-8803